

研究会・地域部会の報告書

提出者：鎌田 真由美 / 提出日：2021.11.9

研究会・地域部会名	関西地域部会
代表者(所属機関名)	鎌田 真由美 (京都大学)
タイトル(イベント名)	第31回バイオメディカル研究会 「スマートシティ構想で目指す医療、健康長寿のための街づくり」
日時	2021年11月2日 14:30~17:00
場所	ウェビナー (zoom)
共催団体	公益財団法人都市活力研究所
後援団体	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、 NPO法人バイオグリッドセンター関西
参加人数	登録 82名 (瞬間最大聴講 65名)
<p>目的：現在、さまざまな都市で「分野横断型スマートシティ」構想が進められている。今回のコロナ禍でも、各地方行政における都市データ整備とその活用が、感染対策や医療提供体制の維持に重要であることは明らかになっている。そこで、第31回研究会では、スマートシティ構想に焦点をあて、その取り組みと課題について共有し、さらに、構想の実現による製薬産業の今後の方向性について議論した。</p>	
<p>概要：下記4題を講演頂いた。詳細なプログラムは以下のリンク参照。 (<a href="https://urban-ii.or.jp/events/detail.php?event_id=433">https://urban-ii.or.jp/events/detail.php?event_id=433</a>)</p> <p>&lt;演題&gt;</p> <p>講演1「大阪スマートヘルスシティ計画 ～2025年万博に向け世界一の健康先進まちづくりが始動する！～」(大阪府スマートシティ戦略部 部長・CIO 坪田 知巳 先生)</p> <p>講演2「心不全重症化予防事業による新しい保健指導の取り組みについて」(国立循環器病研究センター 健診部 特任部長 小久保 喜弘 先生)</p> <p>講演3「柏の葉スマートシティ健康長寿・高齢者コホート研究の現状と展開」 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授 久恒 辰博 先生)</p> <p>講演4「データ駆動型スマートシティにおけるデータ共有とそのプラットフォーム：都市OSとDATA-EX」(東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授 越塚 登 先生)</p>	
<p>成果および感想：</p> <p>今回は「スマートシティ構想」をテーマに、政策・研究の実装・データ基盤について、4名の先生方にご講演をいただきました。坪田先生による大阪スマートヘルスシティのご紹介では、構想の背景から実現した社会の具体的なイメージをお示しいただくとともに、構想実現に向けた公民エコシステムをはじめとしたビジネスモデルについてもご紹介いただきました。研究の実装として、小久保先生より大阪府吹田市における心不全重症化予</p>	

防事業の取り組みについて、疾患リスクスコア評価と市民への還元について具体的な事例をお示しいただきながらご紹介いただきました。また、久恒先生より柏の葉スマートシティにおける脳の老化に関する研究をご紹介いただき、地域コホート研究の重要性と介入による参加者へのフィードバックとその成果についてお示しいただきました。スマートシティ構想実現の要となるデータ基盤については、越塚先生よりデータ連携と活用を担うプラットフォームである都市 OS についてご紹介をいただくとともに、データ連携における標準化およびその活用での課題についても共有をいただきました。

今回のご講演を通して、スマートシティ構想の現状と実現に向けた課題について知ることができました。快くご講演を引き受けて下さった4人の先生方、参加者の皆様とこのプログラムの実現にご尽力いただいた関係者の方々に、心から感謝いたします。また、ご講演資料に関しては、差支えの無い範囲で公開頂けるように先生方をお願いしております。

今回の研究会を通して、ライフサイエンス・ヘルスケア領域における関西の強みを知ることができました。研究会や様々なイベントを通して、異分野融合とイノベーション促進に寄与してまいりたいと思います。